

令和7年度 かほく市立河北台中学校 学校評価最終報告書

★は重点事項

肯定的な回答

() 内の数はより肯定的な回答

重点目標	具体的取組	評価の観点	達成度判断基準	後期達成度 ()はより肯定的な回答	前期達成度 ()はより肯定的な回答	次年度の方向性
			C又はDの場合、再検討			
1 学力向上に向けた取組の充実	① 校内研究会の充実 ・ 教科の見方・考え方に基づく「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた研究及び実践 ・ 生徒指導の4つの視点を重視したわかる授業の実践	【努力指標】教職員 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問・指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (57) A	95% (64) A	要請訪問を積極的に行い、校内研修の充実を図ることができ、教科部会の機能化も推進できた。共通行動がより分かりやすく、生徒と共有できる取組である必要がある。河北台中としての授業モデルを立て、共通理解のもと実践を進める。 個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し、発問や思考ツールの使用など工夫し、思考を深める授業づくりを行っていく。
		【満足度指標】生徒 授業は分かりやすい	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	94% (54) A	93% (57) A	
		【成果指標】生徒 授業では、互いの考えを出し合い、話し合う活動を通じて、自分の考えが深まっている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	92% (53) A	92% (55) A	
	② 1人1台端末の積極的・効果的な利活用 ・ 教科における学びを深めるICTの利活用	【努力指標】教職員 授業の中で、ICTの効果的な活用を工夫している。	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% (57) A	91% (55) A	授業でのICTの効果的な活用を教員間で共有しながら進めている。今後もタブレット端末やデジタル教科書等を活用した授業に取り組んでいく。 「なぜ?」「どうして?」と思わせる課題の工夫と、課題解決において、生徒との対話を充実させていく。
		【努力指標】教職員 授業の中で生徒を見取り、具体的な支援や更に伸びる働きかけをしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% (71) A	100% (45) A	
		【満足度指標】生徒 授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる (R7県目標値95%)	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	88% (43) B	88% (41) B	
	③ 学力調査の有効活用 ・ 学力調査結果を分析し、学力向上プランに基づく指導の徹底と検証(PDCAサイクル) ・ 評価問題の有効活用	【努力指標】教職員 学力向上ロードマップや学力向上プラン、学校評価に基づく指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	91% (43) B	100% (50) A	学力向上ロードマップや学力向上プランをもとに校内研修会で共通理解を図れた。次年度も校内研修会を充実させ組織的に取組を進めていく。 生徒が主体的に取り組め、まとめや振り返りにより学びや変容の自覚を生徒がもてるように全教科で組織的に進めていく。
		【成果指標】生徒 授業では、「自分と同じ(違う)」「なぜだろう」「その根拠は?」など考えながら聞いている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	81% (33) A	80% (36) A	
		【努力指標】教職員 授業の最後に「まとめ・振り返り」「適用・活用」を意識して行っている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% (52) A	100% (68) A	
	④ キャリア教育の視点を重視した取組推進 ・ 将来の夢や希望を持つことができる指導の工夫 ・ 総合的な学習の時間の指導の工夫	【努力指標】教職員 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (62) A	82% (45) B	職場体験、総合的な学習の時間において外部人材を積極的に活用するなどキャリア教育を計画的に進めていく。 進路指導において高校の情報、卒業生の活躍等を生徒に発信し、目標をもたせる指導につなげる。
		【満足度指標】生徒 将来の夢や目標を持っている	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	78% (43) B	82% (48) A	
	⑤ 家庭学習の充実 ・ 「あと一問の理解」を意識した実践 ・ 課題への取組等をマネジメントする力の育成	【努力指標】教職員 宿題(提出物)に対して、コメントなどを通してフィードバックしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (57) A	95% (50) A	生徒の課題の取り組みに対しての点検及びフィードバックはできているが、生徒が主体的となって計画的に取り組めるようにさらなる工夫と支援が必要である。研究企画部、学年部会で実践を進める。
		【成果指標】生徒 自分で計画を立てて勉強している	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	78% (28) B	75% (30) B	

【学校運営協議会より】
 ・授業参観を通して、生徒が極めて落ち着いた態度で学習に取り組む姿が確認された。これは学校における日々の粘り強い指導と、諸活動の積み重ねが着実に結実した成果であると評価できる。
 ・総合的な学習の時間等において、外部人材を積極的に登用したキャリア教育が推進されている。多様な職種や生き方に触れる機会は、生徒の職業観・勤労観の形成に資するものであり、今後も計画的な実施を継続されたい。
 ・経年比較において向上傾向にあることは評価に値する。一方で、前期から後期にかけて数値が低下した項目については、要因の特定と分析を徹底すべきである。

令和7年度 かほく市立河北台中学校 学校評価最終報告書

★は重点事項
 肯定的な回答
 ()内の数はより肯定的な回答

重点目標	具体的取組	評価の観点	達成度判断基準	後期達成度 ()はより肯定的な回答	前期達成度 ()はより肯定的な回答	次年度の方向性	
			C又はDの場合、再検討				
2 自己指導能力の育成を目指す生徒指導	① 基本的な生活習慣を高める指導の徹底 ・ 自然な挨拶、清掃、ベル学等の行動(生徒会や学年プロ委の活動の活性化により充実を図る)	【成果指標】生徒 清掃活動に時間いっぱい取り組んでいる	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	96% (63) B	95% (63) B	清掃は週3日であるが、充実した活動となるように今後も指導していく。	
		【成果指標】生徒 学校や家庭・地域でしっかりと挨拶や会釈ができています	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	93% (56) A	94% (56) A	挨拶の大切さについて気づかせ、職員の朝の挨拶運動、生徒会の挨拶運動等を継続して実施していく。	
	② 生徒指導の機能等を生かした、生徒一人一人の自己指導能力の育成 ・ 特別活動や帰りホーム等を活用した体制づくり ・ 学級内の対人関係や集団活動・生活をする際のルールづくりや生徒相互に認め合うリレーションづくり ・ 失敗から学び、次の挑戦に活かすための振り返りの習慣を定着させる	【成果指標】教職員 学年担当全員で生徒を育てていく体制ができてきている	A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	100% (73) A	95% (73) A	朝・給食・清掃等、学年を中心に職員全員で指導する体制を継続する。	
		【満足度指標】生徒 学校へ行くのは楽しい	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	90% (49) B	89% (45) C	学校へ行くのがより楽しく感じられるように、授業の充実、学校行事の工夫来年度に向けた改善等に取り組む。	
		【満足度指標】保護者 お子様は、学校へ行くのが楽しいと言っている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	80% (38) B	81% (42) B	月1回の各学年全職員で行う面談についても引き続き実施していく。	
	③ いじめ・不登校への適切な対応と教育相談の充実★ ・ 日々の見取り、毎月のアンケート調査や教育相談を活用した生徒の悩み等に組織で対応 ・ 生徒理解に基づく予防的・開発的生徒指導によるいじめ・不登校等の未然防止、早期発見、早期対応 ・ SC、教育相談員、関係機関等と連携した教育相談体制の充実 ・ 校内教育支援センター「Sルーム」の整備	【成果指標】生徒 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	97% (91) B	98% (89) B	いじめは絶対に許されない行為であることを基本とした指導を継続的に行い、生徒会などでの啓発活動の充実を図る。	
		【努力指標】教職員 いじめや不登校傾向等がないか、生徒観察と理解に努めている	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% (77) A	100% (77) A	いじめ、不登校への未然防止、早期対応の徹底を継続的に行い、事後指導(経過観察、継続的支援)も大切に行う。	
		【努力指標】教職員 生徒を認めたり、励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% (62) A	100% (73) A	生徒の長所や取組の過程等を認め価値付けし、生徒個々の良さを自覚できるように指導していく。	
	④ 組織的な特別支援教育の推進 ★ ・ 学校全体で組織的計画的な支援を進めるための校内支援体制の充実 ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画等に基づく指導・支援の充実	【努力指標】教職員 特別な配慮が必要な生徒の共通理解を図り、個に応じた指導・支援に努めている	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% (71) A	100% (82) A	今後も生徒理解に努め、一人一人に応じた丁寧な指導をしていく。良い点を認め、取組の過程等を言葉にしてほめ、価値付けすることで自己有用感を高める。必要に応じて家庭との連絡を密に行う。	
		【満足度指標】保護者 学校は、お子様をよく理解し、指導している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	81% (23) B	77% (24) C		
	【学校運営協議会より】 ・いじめの未然防止および早期対応の徹底を、引き続き最優先事項として推進されたい。特に、ネット関連のトラブルについては、学校のみならず家庭との連携をより一層強化していく必要がある。 ・不登校生徒への対応において、校内教育支援センターが効果的に機能している。今後も一人ひとりの状況に寄り添った個別支援を継続し、状況の改善に向けた組織的な取り組みを推進すべきである。 ・支援を要する生徒へのきめ細かな対応を継続的に推進してほしい。 ・学校内での挨拶はできているが、地域での生徒の挨拶が年々減少しているように感じている。						

令和7年度 かほく市立河北台中学校 学校評価最終報告書

★は重点事項
 肯定的な回答
 ()内の数はより肯定的な回答

重点目標	具体的取組	評価の観点	達成度判断基準	後期達成度 ()はより肯定的な回答	前期達成度 ()はより肯定的な回答	次年度の方向性
			C又はDの場合、再検討			
3 信頼される学校づくり	① コミュニティー・スクール制度の積極的な活用 <ul style="list-style-type: none"> 外部人材の有効活用 PTAや生徒会と連携したボランティア活動の実施 	【成果指標】教職員 様々な体験活動において、外部人材が有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% (71) A	95% (50) B	外部人材を活用した教育活動が生徒たちにも好評である。学校では学べないことを学ぶことができる機会となり、教育活動の充実につながっている。コミスクを中心として、今後も有効活用していく。
		【満足度指標】生徒 授業や行事で専門家の人の話や活動は、より勉強になる	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	95% (62) A	96% (55) A	
	② 積極的な情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ホームページや学校だより等の充実 校区内の小学校への出前授業や学習掲示等の情報発信 	【努力指標】教職員 学校だよりやホームページ等で、教育活動や生徒の姿を発信している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% (86) A	100% (68) A	授業と総合的な学習の時間を軸に、学んだことの成果を表現する等、発信を行っている。今後も行事等も含め、学校内の情報を保護者、地域へ発信する。
		【成果指標】保護者 学校からの便りやHPで学校の指導方針や子ども達の様子などがわかりやすく伝わってくる	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	91% (31) A	90% (25) A	
	③ 小中連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> 校区の小学校との授業参観 小中9年間を見通した共通取組の推進 	【努力指標】教職員 学校は小中連携を積極的に進めている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	72% (24) C	後期	校区の共通課題である不登校児童生徒増加傾向に対する研修等を3校職員で実践し、課題の解決に向けた取組等を検討できた。課題に対して9年間スパンで捉え、3校が連携して取り組むことを継続していく。
		【成果指標】生徒 計画的に家庭学習をすすめることができている *学力向上の取組参考	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	78% (28) B	75% (30) B	
4 人材育成と教育の質を高める働き方改革の推進	① 若手ミドルリーダーの育成の計画的実践 ★ <ul style="list-style-type: none"> 若手教員をメンターとした若手研修会の実施 校務分掌等をベテランと若手がバディを組んで進めていく 	【成果指標】教職員 若プロなど校内研修会が充実している	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% (71) A	95% (50) B	日頃より、授業づくりや学級経営等について情報交換している様子が伺える。若手が学べる環境を整え、円滑に意思疎通を図れるよう、話しやすい環境の維持に努める。校内研修会等、職員がコミュニケーションを取りやすいような持ち方を工夫していく。
		【成果指標】教職員 学年や分掌等の取組について、教職員間の共通理解が図られている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	77% (48) C	82% (45) B	
	② 業務の効率化の取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> 業務内容の見直しと、業務量の平準化 ICTの効果的な活用 	【成果指標】教職員 定時退校時刻や定時退校日を意識して業務を進めるなど、働き方改革に努めている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% (62) B	82% (32) B	働き方改革を意識している様子はある。スクールサポートスタッフ等の有効活用、コドモン、ICT環境が整備されている中で、教職員の業務の効率化を図ることは引き続き大きな課題である。部活動顧問の複数配置などにより推進を行う。
		【成果指標】教職員 ICT環境の整備で、業務が効率化されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	85% (52) B	95% (50) B	
【学校運営協議会より】 ・学校ホームページやお便りを通じた、保護者・地域への情報発信が極めて充実している。発信内容からは教育活動の充実ぶりが窺えるとともに、温かみのある表現が多用されており、学校への信頼感醸成に大きく寄与している。 ・学年や校務分掌等の取り組みについて、教職員間の共通理解が図られている割合に低下が見られる。この要因を多角的に分析し、次年度の組織運営における円滑な意思疎通と体制構築に活かすべきである。 ・地域人材の活用が多角的かつ効果的に展開されている。この取り組みは教育内容の充実にも寄与するのみならず、地域社会へ学校の教育活動を直接発信する機会となっており、今後も継続的な推進が期待される。 ・小中連携の取り組みをさらに充実させ、形式に留まらない実効性のある連携を目指すべきである。義務教育9年間の出口を見据えた、指導の連続性と接続の強化を期待する。						